

2009 年前期岡山プログラム小委員会 抄録

日時：2008 年 11 月 17 日

場所：岡山コンベンションセンター

時間：09:00—15:10

出席：比田井、青木、伊藤、木下、西浦、山下、柳澤（文責）、Ex. Officio：吉田、泉浦、岩田

欠席：中村

1. 前委員会の議事録確認

- ・ 2008B プロ小議事録が配布され、承認された。

2. 観測所ステータス報告：吉田

- ・ 人員：動きなし
- ・ 天候：例年並みだが、とりわけ 10 月の天気が良くなかった。観測報告書の達成は、2008A が 0.7 で通常通りだが、2008B は 0.6～0.65。
- ・ 査読論文数：2008 年（暦年）は、これまでに 15 本（accept まで含める）と把握している。しばらく前に取得されたデータに基づいた論文が出版されている。
- ・ 予算関係：順調に予算消化をしている。大きな事故がない限り困窮することはない見通し。
- ・ 観測装置、望遠鏡の様子：
 - 望遠鏡：大きなトラブルはなし。
 - ドーム：スリット開閉のためのワイヤー交換をおこなった。その工場の過程で、金属製のワイヤードラムに溝ができていたことが判明。通常、ワイヤーがドラム上を連続的に横滑りするが、溝のために間欠的に横滑りし、その過程で素線切れを起こす可能性が高い。そのため、来年度ドラムを交換したい。
 - HIDES：9/22 に CCD を読み出すことができなくなるトラブルが突然起きた。解決まで 10 日要した。原因は現在でもはっきりしないが、3 相 200V 系統を絶縁することで解決した。この作業に伴い、佐藤氏の 6 日間の観測時間をキャンセル、伊藤氏の 2 日間を後ろにずらしてもらった。キャンセルされた佐藤氏の時間は翌月の観測所時間で 6 日間補填したため、日数的にはロスはない。
 - ISLE：年内に Science Grade Array が到着見込。
 - KOOLS：順調。
- ・ 工場の建て替え：既存の施設をプレハブに置き換える。工期は来年 1 月から 2 月まで。観測日程を制限するような影響はないが、工場の作業音で観測者の安眠を妨げられるかもしれない。

3. 申し込み状況の確認

- ・ 申請カテゴリ別：プロジェクト 継続 1 件（夜35）、学位支援プログラム 継続 1 件、新規1件（夜18）、一般： 17件（昼40、夜129夜）、合

計 20件 (昼40, 夜182夜)

- ・ 分野別 : Solar System 2, Stars 10, Star formation 4, Interstellar 1, Galactic 2, Extragalactic 1, Instrument 0, Other 0
- ・ 装置別 : HIDES 13, ISLE 2, KOOLS 3, HBS 2

4. 共同夜数の決定

- ・ 2009A の共同利用夜数は、117 夜に決定した。
 - ① 共同利用期間 : 1月5日 ~ 6月5日, 152 夜
 - ② 観測所時間等の要求合計夜数は 35 夜
 - 特別観望会 : 1 夜、
 - 観測所時間 (エンジニアリング) : 15 夜 (HIDES: 6 夜, ISLE: 5 夜, KOOLS: 3 夜, HBS: 1 夜)
 - 観測所時間 (サイエンス) : 10 夜
 - 日韓共同惑星探査計画 : 9 夜
- ・ ちなみに、ここ数年の共同利用夜数の推移は次のとおり。2006A 109, 2006B 112, 2007A 121, 2007B 111, 2008A 122, 2008B 107,

5. プロポーザルの審査

5.1 プロジェクト観測の審査

- 佐藤
 - 順調に進んでいると判断する。特に問題なし

5.2 学位支援プログラムの審査

- 亀浦
 - 2期の予定だったが、天候不順を考慮して1期の延長を認める。ただし、学位支援枠での採用は今回限りとする。
 - 支援枠がどう有効であったかを知るために、修士論文を提出してもらう。
- 加藤
 - Referee は Scientific には重要と認めている。観測時間をあたえることは必要と判断する。
 - 2009A, B の2期で採用する。更に延長の必要がある場合は改めて一般枠で申し込むように申し添える。

5.3 一般枠の審査

議論の結果、表1のとおり課題を採択した。

表1 : 採択課題一覧

課題番号	筆頭研究者	研究課題	夜
09A-P01	佐藤 文衛	視線速度精密測定による G 型巨星の惑星サーベイ II.	35
09A-02	比田井 昌英	惑星を持つ低金属度星の軽元素と鉄族元素の組成	8

09A-03	安藤 裕康	G型巨星の星震学	9
09A-04	亀田 真吾	水星外圏大気光観測 一般共同利用観測用	未定
09A-06	船山 日斗志	散開星団に属する恒星の金属量の測定	6
09A-07	長谷川 隆	Old open clusters of possible accretion origin II.	4
09A-08	高木 悠平	可視高分散分光観測による前主系列星の年齢決定法の確立	5
09A-09	中岡 正奈	フラットスペクトルTタウリ型星に付随するジェットの探査	4
09A-11	武田 将雄	近赤外線を用いたフィラメント状分子雲に付随するYSOの探査	5
09A-12	Asli Elmasli	Spectroscopic Mode Identification of DD UMa and EN UMa	7
09A-15	森谷 友由希	Be/X線連星 A0535+26の近星点通過後における輝線変動の観測	5.5
09A-16	井上 昭雄	M81群銀河間ガスの電離状態調査	6
09A-17	Duncan Wright	Towards asteroseismology of main-sequence g-mode pulsators: spectroscopic multi-site campaigns for slowly pulsating B stars and γ Doradus stars	8.5
09A-S01	亀浦 陽子	強輻射場における星間偏光特性：塵粒子整列機構の観測的検証	6
09A-S02	加藤 則行	ドップラーシフト法による連星系の系外惑星探査	8

亀田氏の割り当て日数は未定だが、スケジュール調整の過程で決められる。

6 その他

6.1 レフェリー・コメント集の見直し

- これまで、レフェリーに対してはレフェリー・コメント集を送っていたが、その内容・方法の見直しを求める意見が今回のレフェリーから寄せられたので議論した。
- 指摘された問題点は、1) これまでレフェリーに無断でレフェリー・コメント集をおくってきたこと、2) 申請者へのコメントのみならず、委員会に送ったコメントも、コメント集に掲載したこと、である。議論の結果、
 1. 各レフェリーにレフェリー・コメント集を発行する旨連絡すること。
 2. 申請者へのコメントは、開示OKの条件付きで公開すること。
 3. 委員会へのコメントは開示しないこと。
 が決まった。
- 以上のルールは、09A から適用する。また、09B以降のレフェリー依頼の際に、申し添えることにする。

6.2 来期の委員と委員長

- 今回で、岡山プロ小委員の半分（中村、伊藤、青木、比田井、柳澤）が

- 任期満了になったので、後任人事のために、次期委員候補を推薦した。
- 人選のデッドラインは来年1月末。これは、来年2月に行われる光赤外専門委員会で来期の岡山プロ小委員を正式決定するため。

6.3 学位支援プログラム

- 来期のプロ小への申し送り事項
 1. 学位支援枠の評価方法の検討をすること
 2. 採択時に連続割り当て期数を決定すること。割り当てで不十分な場合は、一般枠へ提出するよう採択時に申請者に申し伝えること

6.4 水星観測

- 夜間シーイング：昼の水星観測ののちに夜間観測した研究者によると、観測の最初の3時間程度はシーイングが悪かった、との報告があった。最近シーイングモニターが停止している（施設の故障により）ので、このシーイング悪化が、昼間スリットを開放したことに因ることなのか、本当にシーイングが悪かったかを判断する拠り所はない。それでも、昼間のドーム内温度上昇を抑えるために、Wind Screen を使用して入射光量を制限する、昼間のエアコン稼働させる、などの配慮をすることを観測所側に連絡することとなった。
- 昼夜の観測者交代に伴うトラブル：昼間の観測で使用した Auto Guider 用の赤フィルターの抜き忘れ、Image rotator 抜き忘れがあった。
- 交代時刻のトラブル：交代時刻は日出/日の入りと委員会で決定した。採択通知に添えて、その旨昼夜の観測者に連絡したにもかかわらず、当事者同士がその連絡を忘れていたところに、観測所職員が交代時刻は当事者同士で話し合っただけで済むように伝えたい。それゆえ夜の観測者が使用した観測時間が当初の決定より減ることとなりクレームがついた。2009A の観測者および、観測所職員に周知徹底することを確認した。